

事業活動実績報告書

施設名	明昭第二幼稚園
教育理念	○子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人とかかわる力、たくましさをそだてていく。 ○遊びを中心に子どもたちの主体性を大切に一人ひとりの個性、発達の姿に応じた援助・保育をする。
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	SDGsを取り入れた保育(考える・意識する・実践する)
2 実施期間	令和 5年 7月20日 ~ 令和 6年 3月 6日

3 取組概要	(取組日) 令和5年 7月20日 ~ 令和5年 9月12日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 第1回 オーストラリアと水 SDGsゴール3, 6, 13, 14 3クラス合同でホールでちきゅうフレンズの絵本を見ながらワークシートでオーストラリアの暮らしと文化、SDGsの問題を学習。水の大切さについて考える。水がなかったらどうなるか話し合い、水の大切さや水を無駄にしないことを学ぶ。アフリカの水のない地域で1日ばかりで親子で水を汲みに行く絵本を見て、水の入ったバケツを頭の上において10メートル離れたプールに水を運ぶ体験をし、水を運ぶ過酷さ、水のありがたさを肌で感じ、水を無駄にしない姿勢が芽生えた。	
	(取組日) 令和5年10月18日 ~ 令和5年11月17日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 第2回 ケニアと生き物 SDGsゴール4, 14, 15, 16 3クラス合同でホールでちきゅうフレンズの絵本を見ながらワークシートでケニアの暮らしと文化、SDGsの問題を学習。都市・近代化が進む中で住処を追われ、密猟の危機に瀕するケニアの森の動物たち(陸の生き物)の命の大切さについて話し合い、意識を高める。小動物とのふれあいを体験するふれあい動物園や作品展でのケニアの森を守り隊というテーマでの動物づくり(キリン、ライオン、サイ)、マイエコバックづくりを通してSDGsについて考える。	
	(取組日) 令和6年 2月16日 ~ 令和6年 3月6日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 第3回 シンガポールと入・第4回 総集編 SDGsゴール 1, 2, 10, 11, 12 各クラスで実施。 ちきゅうフレンズの絵本、教材のワークシートを用い、シンガポールの暮らしと文化、SDGsの課題、貧困、飢餓、ゴミ問題について学ぶ。食べ物を無駄にしない、ゴミを減らすことについて話し合い、意識する。清掃車の絵本で、ゴミがどこに運ばれるか、集積場がゴミでいっぱいであることを知り、ゴミを減らすことを考える。最後にまとめの教材でこれまでを振り返り、SDGs地球を守ることを意識し実行する大切さを再確認する。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	

写真添付
活動内容が分かるもの
取組に関するもの

効果検証報告書

施設名		明昭第二幼稚園
教育理念		○一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人と関わる力、たくましさ育てる。○遊びを中心に子どもの主体性を大切に一人ひとりの個性、発達の姿に応じた援助・保育をする。
事業の区分(5領域)		健康・人間関係・環境・言葉・表現
1 事業名		SDGsを取り入れた保育(考える・意識する・実践する)
2 事業概要		幼児向SDGsプログラムちきゅうフレンズ』を取り入れた保育活動。年間3回とまとめ編を実施。世界とSDGsという視点で多様性を学び、子どもたちの世界観を広げる。地球を守るSDGsを考え、意識し、具体的な実践につなげていく。その他、エコバックづくりでプラスチックごみを減らすなどSDGsにつながる活動を行う。
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 必要な人員は5歳児クラス担任とスクリーンとプロジェクターを操作する教員1名。ZOOMで内容を研修し、送られてきた教材ワークシートから使用するものを選び、スクリーンに絵本や映像を投影、2階ホールやクラスで行う。プログラムに関連した活動を考え、実施しSDGsについて考え、意識し、実践につなげる。 活動の様子を写真に記録し、報告書を作成し、保護者に配布。家庭でもSDGsへの意識を持ち、実践するよう協力を仰ぐ。
	事業後 3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 オーストラリア、ケニア、シンガポールの生活文化にふれ、SDGsの問題を考えるよいきっかけとなった。ワークシートを園児に合わせて選ぶことで理解が増し、SDGsへの意識が高まった。2階ホールで2回実施し、学年で話し合ったりして問題を共有できた。スクリーンとプロジェクターの設定と操作をする教員を置くことで、担任も子どもたちとともに考えることができた。異文化に触れ、SDGsの課題を自分事として考える機会が今回のちきゅうフレンズによりもたらされた。
計画時	4 事業のねらい	・世界の文化に触れ、多様性を学ぶ。 ・世界のSDGsの課題を知り、問題を意識し、自分事として身近なものとして考え、出来ることをやろうとする気持ちを育てる。
	事業後 4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ちきゅうフレンズの教材で海外の生活様式や文化、SDGsの問題を日本と比べながら考え、多様性を学ぶことができた。SDGsの問題をみんなで考え、話し合い、自分たちはどうすべきか、自分事としてとらえることができた。異文化にもふれる貴重な体験となった。世界の出来事を身近な問題としてとらえるきっかけとなり視野が広がった。みんなで話し合う機会が持て、人の意見を聞く、意見を言うなどの姿勢が身についたように思われる。
計画時	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 幼児向SDGsプログラムちきゅうフレンズの活用とこれを発展させた園独自の活動により、異文化にふれ、多様性について学び、SDGsについて考え、意識し、実践する。 第1回 オーストラリアと水の教材を活用する。園で発展させた活動は水をいれたバケツを頭の上に乗せ、10メートル離れたプールに水を運び貯めること。水着で園庭で行う。 第2回 ケニアといきものの教材を活用する。園行事ふれあい動物園を通し、小動物に触れ、命の大切さを考える。作品展では住処を追われ禁猟により絶滅の危機に瀕する動物たちの住処・森を作り、陸の生き物を守る意義や動物たちの命の大切さを実感する。ライオン、キリン、サイを作る。プラスチックごみにより命を奪われる海のいきものを守るため、マイエコバックも作成する。 第3回 シンガポールと人の教材を活用。貧困の問題から食べ物が無駄にしないこと、ごみ問題について絵本を通し考え、皆で話し合う。第3回とともにまとめを行い、各回の活動を振り返る。
	事業後 5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 異文化や生活様式の違いなど多様性を学びながら、各国のSDGsの問題について、皆で考え、意識し、自分事として出来ることを探すことができた。保育実践として水をプールに運ぶ、小動物とのふれあい、マイエコバックづくり、作品展でのケニアの動物製作、動物の森を守り隊などの体験活動を通し、SDGsをより身近な問題として考えることで、実践につなげることができた。家庭へ毎回、活動の様子を記した報告書を配布し、家庭でもSDGsの問題を考えることができた。

6 環境構成	<p>デジタルえほん「ちきゅうフレンズ」とSDGS教材ワークシートを活動導入で使用。パソコン、映写機、プロジェクター各1台。ホールまたはクラスで設置、操作。人員はクラス担任の他、機器を操作する教員1名。教材ワークシートはコピーし、園児が持ち帰る冊子とする。キッズマイエコバックづくりの材料とSDGsのクイズ冊子。SDGs関連の絵本や紙芝居。清掃車の絵本、参考図書など。</p>
--------	--

事業後 6についての効果・検証	<p>事業実績から推測される効果や改善点等 第1回と第2回はホールで学年で映像を見て、ワークシートに全員で取り組んだ。皆で異文化に触れ、SDGsの問題を考えることが出来た。3回目とまとめは各クラスでそれぞれのペースに合わせて学習する。園独自の活動は夏場に水着でバケツに水を入れ頭にのせプールに運び水を溜める活動やマイエコバックづくり、ふれあい動物園、作品展行事を利用して動物とのふれあい体験、ケニアの動物製作などイメージを具体的な活動に落とし込みSDGsの問題を意識し、実感することが出来た。</p>
--------------------	--

7 期待される効果 児童の姿	<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・世界のいろいろな人々や文化にふれ、多様性を意識する。 ・SDGsという地球上の誰もが考えるべき課題や環境問題に触れ、みんなで考え、出来ることをやろうとする気持ちが芽生える。</p>
-------------------	--

事業後 7についての効果・検証	<p>事業実績から推測される効果や改善点等 異文化に触れ、髪型、肌の色、民族衣装や踊り、食べ物などに興味・関心を持ち、世界を意識するようになった。SDGsの問題も皆で話し合い、考え、いろいろな活動を通して、自分事として身近に感ずることが出来た。頭に水の入ったバケツを一生懸命皆で運ぶ姿が見られ、協力して頑張る力やSDGsを意識し、身近な問題として人やいきものを思いやる気持ちが育った。</p>
--------------------	--

8 効果検証 総括	<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ものを大切にすることなど、SDGsにつながる活動はこれまでもしてきたが、世界の文化や生活様式、SDGsの問題を取り扱うプログラム「ちきゅうフレンズ」を活用することで多様性への学びにつながった。みんなで話し合うことで、海外の問題を身近な問題として意識し、考えるきっかけを持つことができた。 ちきゅうを大切にすることや人やいきものへの思いやりが育つ。 水のない地域で1日かけて水を運ぶ親子の話を絵本で知り、同じように頭に水を入れたバケツで水を運ぶ体験をした子どもたち。皆必死にがんばっていた。水を運んでいた親子の事を思いながら活動する姿が感動的だった。ケニアの生き物の住処を守ろうとする気持ちが各クラスで製作した動物に表れ、動物愛があふれていた。動物を守るレンジャーを作るなどアイデアや発想が子どもたちから出た。皆で協力して表現する力、考えを出し合う力が育っていった。第3回とまとめの時間があまりとれなかったことが残念である。来年度は葛飾区清掃局の体験学習と取り入れたい。</p>
--------------	--